



# 大谷大学地域連携室 事業報告書 2017



## はじめに

大谷大学地域連携室は開設から4年目を迎えることとなりました。

地域の皆様と進めてきたプロジェクトでは、豊かなコミュニケーション、新たな発見、知識の深まり、スキルの向上など、地域で活動を進める中で学生の学びの成果が花開いています。

ひとえに、温かく見守っていただいた皆様のおかげと感謝しています。

本報告書の発行をもってこの1年の歩みの振り返りとするとともに、共に歩んでいただいた皆様への心よりのお礼とさせていただきたいと存じます。

さて、2018年度本学では、これまでの文学部、短期大学部に加え、社会学部、教育学部を新たに開設する運びとなりました。すべての学部では、これまで以上に地域に密着した学びを進める事となります。

本報告書を手にとっていただく事で、皆様との繋がりがより一層深まることを、また新たな繋がりが生まれることを祈念しております。引き続きのご指導、よろしくお願い致します。

大谷大学 地域連携室  
室長 志藤 修史

## もくじ

地域連携室について・・・1

2017年度取り組み・・・2

2017年度 プロジェクトレポート・・・3

中川学区の暮らし再発見プロジェクト・・・4

南丹市美山平屋地区大谷学生との交流活動・・・6

京都府北部福祉フィールドワーク・・・7

祇園祭ごみゼロ大作戦プロジェクト・・・8

子ども・子育て支援プロジェクト・・・10

北大路情報発信プロジェクト・・・12

京都市北区鳳徳学区まちづくりビジョン作成・・・14

聞取りを通じた多世代交流による地域活性化プロジェクト(左京)・・・16

若者のまちづくり参加促進プロジェクト・・・18

学まち連携大学促進事業に関する取り組み・・・19

パブリシティ実績/受賞歴・・・20

情報発信・・・21

問合せ先・・・21

## 地域連携室について



【審議館1階 コミュ・ラボスペース】

大谷大学では従来から個々の教員が地域と関わり教育研究活動をおこなっていましたが、大学として組織的にそうした活動を支援する体制は必ずしもとれていませんでした。

しかし、グランドデザイン(2012年度—2021年度)策定を契機に地域の中で生きていく大学であることを確認し、そのための体制づくりを始めました。

2015年6月に教員・学生の地域連携活動を支援する機関として地域連携室を設置しました。

現在の地域連携室の業務の第一は、個々の「地域連携プロジェクト」の企画、実施をサポートすることです。

「地域連携プロジェクト」の多くは社会学部コミュニティデザイン学科ないし現代社会学科の教員が担当する正課授業に関わる教育活動としておこなわれていますが、他学部の教員が担当するプロジェクトもあり、大谷大学生なら誰でも参加できるプロジェクトもあります。徐々にこうしたプロジェクトが増えてくるのではないかと考えています。

業務の第二は、「地域連携プロジェクト」間の交流を推進すること、プロジェクトの成果を学内外に発信することです。地域と大学の相互交流の窓口になりつつ、大学教員や学生がその立場ならではの地域貢献をするなかで、学びを深めていけるようサポートしていきたいと考えています。

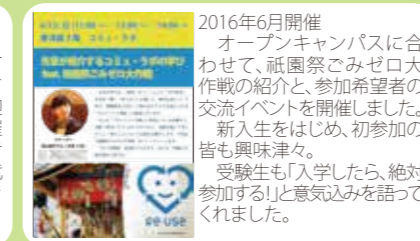
## アーカイブ

地域連携室の事業の一部をご紹介します。

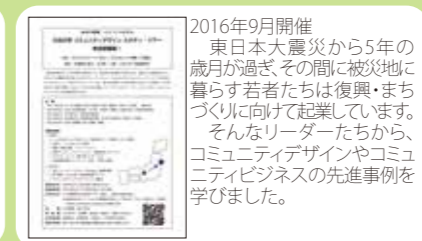
### 地域連携室 主催事業【2015年～2016年】



2015年10月開催  
地域の魅力を活かす、自分の関心や経験を活かして地域の良い循環を生み出す仕事に取組むゲストをお迎えし、トークセッションを開催しました。自分にとっての「好きなもの」の探し方や、学生時代の過ごし方についてもお話をお聞きしました。

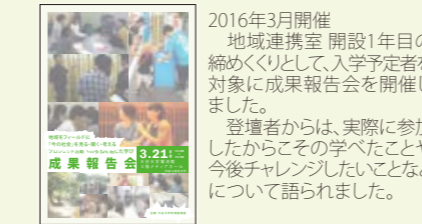


2016年6月開催  
オープンキャンパスに合わせて、紙園祭ごみゼロ大作戦の紹介と、参加希望者の交流イベントを開催しました。新入生をはじめ、初参加の皆さんも興味津々。受験生も「入学したら、絶対参加する」と意気込みを話してくれました。

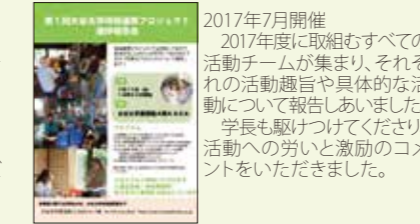


2016年9月開催  
東日本大震災から5年の歳月が過ぎ、その間に被災地に暮らす若者たちは復興・まちづくりに向けて頑張っています。そんなリーダーたちから、コミュニティデザインやコミュニティビジネスの先進事例を学びました。

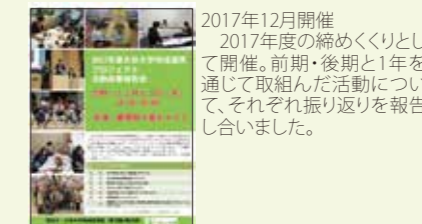
### 活動成果報告会の開催【2015年度、2017年度開催】



2016年3月開催  
地域連携室 開設1年目の締めくくりとして、入学予定者を対象に成果報告会を開催しました。登壇者からは、実際に参加したからこそ学べたことや今後チャレンジしたいことなどについて語られました。



2017年7月開催  
2017年度に取組むすべての活動チームが集まり、それぞれの活動趣旨や具体的な活動について報告しあいました。学長も駆けつけてくださり、活動への労いと激励のコメントをいただきました。



2017年12月開催  
2017年度の締めくくりとして開催。前期・後期と1年を通じて取組んだ活動について、それぞれ振り返りを報告し合いました。

### 年次事業報告書の発行



【2015年度 2016年5月発行】



【2016年度 2017年7月発行】

過去の年次事業報告書は、地域連携室の窓口で閲覧いただくことができます。数に限りがございますが、お渡しすることも可能です。ご関心をお持ちの方は、地域連携室までお尋ねください。



## 2017年度の 取組み

地域連携室では、各プロジェクトのサポート以外にも、円滑な地域連携のための様々な取組みを行っています。こうした取組みの一部をご紹介します。

### 地域連携プロジェクト報告会の開催

地域連携プロジェクトに参加する学生同士の交流と研鑽を目的に、地域連携プロジェクトの報告会を開催しています。日頃手探りで活動している学生達も、報告会を機に活動の目的を振り返り、また、活動を通じて何を学び、今後どんな力を身につけたいかを考えています。このことは、プロジェクト活動の充実だけでなく、学生個人の成長にも繋がっています。



### 地域連携プロジェクト活動環境整備

地域連携プロジェクトの活動では、学外活動で使用される機材や、現地に向かうための移動手段、授業時間以外でのミーティングなどが必要となることが多くあります。



これらを円滑に行えるよう、ミーティングスペースや各種備品、関連資料の整備などを進めています。整備にあたっては、京都市及び(公財)大学コンソーシアム京都の「学まち連携大学促進事業」のご支援をいただきました。(\*大谷大学の学まち連携大学促進事業に関する取組みについての詳細はp19をご参照ください)



### 地域連携の窓口

地域の皆さまからの地域連携に関するお問合せ・ご意見・ご相談に関する窓口として、お話を伺っています。お気づきの点やご提案などございましたら、地域連携室までご連絡お待ちしております。

### 北区学生×地域応援団への参加

京都市北区には、大谷大学をはじめ、京都産業大学、佛教大学、立命館大学と4つの大学があります。これらの4大学に加え、北区社会福祉協議会と北青少年活動センターによって構成される、学生(若者)の地域活動への参加を応援するネットワーク「北区学生×地域応援団」に参加し、学生の地域活動のサポートについて、意見交換や情報共有などを行っています。

### 学長メッセージ

私が学生時代を過ごした30年ほど前までは、「間借り」という形での下宿が、学生生活の基本でした。互いに煩わしいこともあったでしょうが、学生は親同然の大家さんから多くを学びました。

今、大学の地域連携活動として「高齢者との共同生活」や「異世代同居」が注目されますが、以前は当たり前の風景でした。特に学生の街京都では、学生は地域と共にあり、地域に育てていただきました。

そんな懐かしくも温かい関係が、大谷大学の地域連携で芽生えればと思います。地域の方々にはご迷惑をおかけしますが、よろしく願っています。



大谷大学・大谷大学短期大学部  
学長 木越 康

# 2017年度

## プロジェクトレポート

### 凡例

- 📍 活動場所
- 📅 活動期間
- 📖 科目名
- 👤 指導教員
- 👥 参加学生

## 中川学区の暮らし 再発見プロジェクト

📍 京都市北区中川学区

📅 2017年4月～2018年3月

📖 文学部社会学科 地域政策学コース専門科目

👤 大原ゆい・志賀信夫・志藤修史・渡邊拓也 🧑‍🎓 文学部社会学科 2年生・3年生 18人



### プロジェクト概要

本プロジェクトは、2015年度から中川社会福祉協議会との連携事業として、「北区民まちづくり提案支援事業」の助成を受けて実施しています。「地域の人々が日々の暮らしの中で感じている困りごとは何だろうか?」「暮らしの不安を少しでも解消、解決できる方法はないのだろうか?」という社協のみなさんの地域への思いが私たちが連携して中川学区での暮らしの実態調査を始めることになったきっかけでした。

中川学区は京都市北部の山間地域に位置し、中川・杉阪・真弓という3つの地区から成り立っています。高齢化率は40%を超え、最寄りの病院やスーパーまでは車で20分以上かかります。公共交通機関であるバスは1時間に1本しか走っていません。このように、一見すると「暮らしていくのは大変そう…」ととらえがちですが、決して大変なだけでなく、そこにはかけがえのない地域の人たちの思いや、これまで作りあげてきた歴史や文化、暮らしがあります。

本学では、このプロジェクトを通して、地域に暮らす人々の思いを大切に、地域の抱えている課題や、地域のこれからのことを共に考えていきたいと思っています。山間の地域での暮らしのお話は初めて聞くことも多く、驚くこともたくさんあります。何度も地域を訪ね、お話を伺い、さまざまな活動を共有する中で、暮らしを知り、そしてともに考えるという経験につながっていると感じています。

### 活動内容と成果

2015年度から始まった本プロジェクトでは、地域の人たちとの交流活動や、暮らしの実態調査を実施してきました。

2017年度は、中川地区に暮らす75歳以上の皆さんを対象に暮らしの実態調査を行いました。そのほかにも、真弓地区では地域の方との交流を目的とした「andサロン」の企画・運営、伝統的な祭事である「お火焚き」や地域の清掃活動に参加しました。杉阪地区でも真弓地区と同様に「お火焚き」に参加させていただき、そこでいつもお世話になっている地域の皆さんへお礼の気持ちを込めて「大根炊き」を振舞いました。

このように、地域のみなさんからは様々な場面で、地域の歴史や文化、仕事や暮らしについてお話を伺い、交流を深めたりしています。何気ない会話の中にある地域への思い、暮らしの中の困りごとにしかりと耳を傾ける活動でありたいと考え、日々の活動に取り組んでいます。

活動の様子は「中川学区の暮らし再発見プロジェクト活動記録集Vol.3」として冊子にまとめています。閲覧を希望される方は、地域連携室までお問い合わせください。



### 参加者コメント



小梶 洋平

社会学科 4年生

私は中川に暮らすみなさんと関わることで自分の生きがいを見つけることができたと感じています。

何気ない会話のなかで地域のみなさんからのひと言は「楽しいな♪活動を続けてきてよかった」とまるでプレゼントを貰ったような気分にさせてくれます。



橋本 耕平

社会学科 3年生

学生が地域にできることは、新たなコミュニティの形成であると思い、少しでも地域に活力を与え、貢献できればと考えて活動しました。しかし、地域に深く関わって行く中で、逆に高齢者からパワーや楽しさ、地域の方の知恵を貰い、学生と高齢者の間に互恵的な関係を感じました。

今後も、地域がより良くなるきっかけとして、精力的に活動していこうと思います。

## 南丹市美山平屋地区と大谷学生との交流活動

📍 南丹市美山町平屋地区

📅 2017年10月7日～8日

📖 文学部社会学科地域政策学コース専門科目

👤 大原ゆい・志藤修史

👥 文学部社会学科 1年～3年生 18人

### プロジェクト概要

年を重ねても地元で暮らし続けられる地域にしていくことを目標に地域活動に取り組む、平屋地区地域福祉推進協議会、南丹市社会福祉協議会のみなさんと共にプロジェクトに取り組んでいます。学生による高齢者宅等への訪問・交流をきっかけに、地域の住民同士の間においても訪問交流を円滑にし、地域の人どうしによる支え合いを地区ぐるみで行う活動です。

本プロジェクトは、京都府社会福祉協議会が実施する京都ボランティアバンク補助事業「あたらしい組み合わせをつくる～コラボ活動助成～」の助成を受けて実施しました。



### 活動内容と成果

2017年度は1泊2日の宿泊型プロジェクトとして実施しました。

1日目は、平屋地区の高齢者の皆さんとの交流を目的とした「ふれあいカフェ」を実施しました。学生による「音楽隊」を結成し、一緒に歌って楽しめる音楽を披露し、楽しい時間を共有することができました。

2日目は、2016年度に同地区で実施した暮らしの困りごと調査のなかで、地域の皆さんから、草刈りや雪かき、農作業などの頼みごとや、将来への不安や日頃の話し相手が少ないことを伺い、改めてそれぞれのお宅へ訪問し、交流や生活のお手伝いを行いました。

### 参加者コメント



**神田 恵**

社会学科 3年生

サロンの参加や個別訪問先での栗拾いも印象深いです。何より住民の皆さんから美山のいいところをたくさん教えていただいたことが一番記憶に残っています。

私は初めての参加で緊張もあったのですが、皆さん快く迎えてくださり、とても充実した2日間でした！



**工藤 早紀**

社会学科 4年生

私は、いつ伺っても笑顔で出迎えてくださる温かい美山という地域が好きです。今回は、80人規模のふれあいカフェのお手伝いをさせていただき、内容、集客力共にとても勉強になりました。美山プロジェクトで身につけた知識を、他の地域でのサロン活動でも発揮し、地域活性化に貢献したいです。

## 京都府北部福祉フィールドワーク

📍 京都府舞鶴市内

📅 2017年9月11日～13日

📖 正課外活動

👤 中野加奈子・大原ゆい

👥 社会学科社会福祉学コース 2年生・4年生 6人  
社会学科地域政策学コース 2年生・3年生 2人

### プロジェクト概要

本プロジェクトは、京都府北部人材確保事業の助成を受けたフィールドワークです。いま、全国で福祉職場の人材不足が社会問題化しています。それには、「仕事がしんどそう」というイメージが先行していたり、福祉の仕事の魅力や面白さを学ぶ機会が多くはないことと関わっていると考えられます。けれども、福祉の仕事は人の可能性に触れたり、地域の魅力を発見したりしながら、自分も周囲も成長するやりがいの大きなものです。また、商店街の活性化や交通問題などのまちづくりを考える上でも、福祉の視点は重要になります。



そうしたまち全体で取り組む「福祉の仕事」と「まちづくり」の魅力を学ぶ機会として、京都府舞鶴市内においてフィールドワークを行いました。舞鶴市には豊かな自然と長い歴史や文化があります。そのような舞鶴市の魅力を探りながら、「福祉体験コース」「福祉アドバンスコース」「地域体験コース」という三種類のフィールドワークを実施しました。各コースのコーディネーターは舞鶴市内の社会福祉法人大樹会にお願いしました。

### 活動内容と成果

「福祉体験コース」は市内の福祉施設や医療機関で働くソーシャルワーカーとの対話を中心とし、仕事の魅力を知ることが重視されたプログラムでした。

「福祉アドバンスコース」は社会福祉援助技術現場実習を経験した4年生が地域資源を活用したまちづくりや地域を基盤とした支援の実際を、ソーシャルワーカーや行政機関、地域住民の皆さんとの交流を通して体験しました。また地域政策学コースの学生は「地域体験コース」に参加。古民家再生の具体例などを学びながら、地域の人たちとともに取り組む「まちづくり」を考えました。いずれのコースでも、実際にまちで活躍する人や地域で暮らす方々と言葉を交わし、教室の中で学ぶ知識と実際の社会との関わりについて考える機会となりました。

### 参加者コメント



**山田 篤規**

社会学科 2018年3月卒業

フィールドワークを通して、専門職の方と自分たち学生との大きな違いは、実現させるための知識や方法を知っているかどうかだと気づきました。「実現させる」ための学びをもっとたくさん積み重ねたいと思いました。



**川北 楓子**

社会学科 3年生

やりがいを持ち、楽しく働く方々と触れ合い、私もこんなふう楽しめるソーシャルワーカーになりたいと思いました。

## 祇園祭ごみゼロ大作戦プロジェクト

📍 京都市中京区、下京区(祇園祭山鉾町)

📅 2017年4月～2017年7月

📖 大学導入科目/正課外活動

👤 赤澤清孝

👥 2年～4年生 69人(短期大学部生1人含む)/1年～4年生 86人



### プロジェクト概要

世界有数の伝統祭事である祇園祭。祭の山場となる山鉾巡行前の宵山行事期間中は、多くの夜店・屋台が四条烏丸を中心に広範囲で立ち並び、国内外から多くの来場者が訪れます。しかし、来場者数に比例して課題となるのが、紙やプラスチック容器などの廃棄物でした。以前に比べ散乱ごみなどは減ったものの、可燃ごみの量は増える一方でした。

そこで2014年、NPO、行政、夜店や屋台、ごみ収集事業者などの協力のもと、使い捨て食器を、繰り返し洗って使用可能なリユース食器に切り替える「祇園祭ごみゼロ大作戦」の活動が始まりました。この活動には、のべ2000人の市民がボランティアとして活動を支援しています。大谷大学では、2015年より祇園祭ごみゼロ大作戦の活動に協賛し、また、全学を挙げてこの活動に参加しています。

参加は正課授業を受講し、その一環として参加、ボランティアとしての参加の2つの形態があります。授業では、祇園祭の歴史、ごみ問題、環境問題に関わる市民活動の実例など、多様な視点から「祇園祭ごみゼロ大作戦」の背景やこれまでの成果について学び、その上で宵々山・宵山当日の活動に参加し、リユース食器の回収やごみの分別を促しました。活動後は、その経験をレポートにまとめることで環境問題や、環境問題の解決に向けて取り組む市民活動への理解を広げるとともに、主催団体に活動の課題や改善点を提案し、次年度以降の活動につなげてもらうようフィードバックしました。

### 活動内容と成果

正課授業科目が社会学科の学科科目である社会学特殊演習5から、人間学Ⅱ及び、仏教と人間Ⅱへ変更されたことにより、社会学科以外からも多くの受講者がありました。ボランティアも含めた学生の総参加者数は過去最高の155人となり、活動の中心的な役割を果たすリーダー役も13人が務めました。

当日は、学年・学科の異なる学生のほか、他大学の学生や社会人、高校生などと一緒に活動に参加。鉾町にお住まいの方や観光客からの感謝や励ましの声も多数いただきました。

また、今年度は、袖口に大谷大学の名称とロゴがプリントされたTシャツをボランティアTシャツを着用しました。これにより、集合場所や、担当のエコステーションにおいて自然と相互に声かけや自己紹介が始まり、例年以上にチームワークよく活動できたようです。

この他、例年、夜間に活動するボランティアが少なく運営に困難をきたすことから、17時から24時を中心に参加するよう促しました。その結果、遅い時間帯の運営に大きな貢献ができました。

こうした体験を経て、学生たちは、様々な立場の人たちがひとつの目的に向けて協力し、実行することの意義を実感しています。



回収後のリユース食器



食器の回収、ごみの分別収集の呼びかけ



体験を元に改善点について話し合う

### 参加者コメント



**平本 紅把**

文学科 3年生

道にゴミが落ちていたらどうしますか？気付かないふりで通り過ぎますか？それとも拾いますか？

以前の私は「どちらでもいい」でしたが、活動に参加し、自分の意志を持ち、判断することを大切さを学ぶことができました。



**伊藤 浩太郎**

歴史学科 3年生

この活動に参加して「ごみ」や「分別」に対する考えが180度変わりました。分別について学ぶだけではなく、友だちを作ることや、自分の中に秘めていた才能を発揮することもできます。大学生でしかできない経験をぜひ！

## 子ども・子育て支援プロジェクト

大谷大学、楽只保育園 ほか

2017年4月～2018年3月

短期大学部幼児教育保育科 専門科目

富岡量秀、小川晴美、矢野永史子

短期大学部幼児教育保育科



### プロジェクト概要

歴史があり、自然豊かな北区には住宅地も多く、子育て世帯もたくさん暮らしています。京都市及び北区の子育て政策の中で、乳幼児の子育て中の保護者の不安や疑問を解消し、地域の人たちとの仲間づくりや交流活動が推進されています。こうした状況を踏まえ、大谷大学・大谷大学短期大学部では、将来幼稚園教諭や保育士を目指す学生達の学びと地域貢献を両立した試みとして、次の活動に取り組んできました。

- (1) 北区の掲げる『子どもを安心して産み育てることのできるまちづくり「ニコニコ北っ子事業」等の推進』の実践の一つとして、「すくすく赤ちゃん広場」を開催。地域の子育て中の親子が集い、主任児童委員や地域子育て支援ステーションなどの子育て支援者との交流を深める場を設けています。
- (2) 京都市の施策の一環で、身近な地域における子育て支援のネットワークの拠点として、市内のすべての保育園(所)、認定こども園、児童館が「地域子育て支援ステーション」として指定されています。北区にある「紫明幼稚園」「楽只保育園」も「地域子育て支援ステーション」の指定を受けており、こちらの2園と連携して「子育て相談の実施」「子育て講座・園庭開放等の実施」などを「あかちゃんにこちゃんサロン」「赤ちゃんの『いないいないばあ』教室」として取り組んでいます。

### 活動内容と成果

子ども・子育て支援プロジェクトは、京都市や北区役所・北保健センターの子育て施策の実践として位置づけ、主に乳幼児期の子どもの健やかな育ちと、保護者の仲間作りを始めとして、主に下記に挙げる3つの活動に取り組みました。

#### (1) すくすく赤ちゃん広場

乳幼児の保護者と保護者、そして支援者との地域交流を目的とした事業を地域子育てステーション・主任児童委員・社会福祉協議会・子ども支援センターなどと共同で実施しています。2017年度は、10月20日(金)に開催し、139人(赤ちゃん67人、母親67人、父親4人、妊婦1人)とたくさんの親子に参加いただきました。学生の参加は62人に上り、きめ細やかなサポートを行なうことで、好評を得ることができました。

#### (2) 赤ちゃんにこちゃんサロン

2017年度は、8月、12月、3月の3回実施。それぞれ、わらべ歌や手遊び、絵本読み聞かせなどに加えて、水遊びやツリー作りなどの季節を生かした遊びや、保健センターより保健師の方に来ていただき赤ちゃんの健康にかかわるお話を聞く場を設けるなどのプログラムを実施しました。結果、のべ30組66人の親子の参加があり、12人の学生と3人の教員が活動に参加しました。

#### (3) いらないないばあ教室

北区内における子育て支援活動の拡充として、京都市保育課主管の子育て支援事業「いないないばあ教室」を実施しました。全6回を1クールとして、2クール開催し、①自己紹介、おもちゃ作り②離乳食の話③離乳食の味見会(楽只保育所にて)④0歳児担任との話(楽只保育所にて)⑤健康についての話⑥ほっこり子育て広場(テーマ:いつくしむ ～子どもも私もかけがえのない存在)という内容でした。また、本事業のスピノフ事業として本学教員による「赤ちゃんのこぼれ」をテーマとした特別講座も開催しました。

2017年度の「いないないばあ教室」は、「子育て支援チーム:小川ゼミ・富岡ゼミ・矢野ゼミ」を中心とする学生有志で実施しました。今年度は「壁新聞」づくりにも取り組み、学生自身と子どもとの関わり方や「手作り」のあたたかさやを保護者に伝えることができました。保護者からも好評で「壁新聞」が欲しいという希望も相次ぎました。学生自身も「手作り」が、保護者の心を和ませることや、就職後の実践の場での「園だより」や「子どもの姿」を保護者へ伝える有効なものであることを実感し、そのスキルの向上の意義を実感したようです。「手遊びやふれあい遊び」の実施も、保育者としての実践力、保育者マインドの育生につながっています。

2018年度は、2017年度に引き続き、「すくすく赤ちゃん広場」「赤ちゃんにこちゃんサロン」「いないないばあ教室」の活動を展開し、北区における子育て支援事業の拠点としての機能を高めていきます。

### 参加学生の声



- ・初めは戸惑いや不安が多かったが、後半から積極的になることができ、楽しかった。
- ・積極的に保護者と話せるようになり、いろんなお話を聞くことができた。
- ・母親の悩みがたくさんあることが知れた。悩みを相談する場が必要と感じた。
- ・共通した悩みがあっても、一人ひとり違うので、それぞれに合った支援をしていく難しさを感じた。

## 北大路情報発信プロジェクト

📍 京都市北区北大路エリア

📅 2017年4月～2018年3月

📖 文学部社会学科地域政策学コース専門科目

👤 赤澤清孝

👥 文学部社会学科 2年生・3年生 30人



### プロジェクト概要

地域政策学コース2、3年生の合同の演習として、大学のある北区北大路エリアの情報発信をテーマとしたプロジェクトを行いました。

北大路エリアは、京都市内中心部の京都駅や烏丸、河原町エリアに比べてタウン情報誌などのメディア掲載もあまりありません。また北区には上賀茂神社、金閣寺などもあり周辺地域の情報は旅行雑誌などでも取り上げられていますが、北大路駅周辺は掲載が少ないというのが現状です。

こうしたなか、学生が地域に密着した情報を取材し、発信に取り組むのがこのプロジェクトです。メインの対象層は、この地域で暮らす、働く、学ぶ若い世代です。この地域での生活歴が少なく、地域の情報を求めている層にインターネット等を通じて情報を届け、人やお店とのつながりづくりを促します。

2016年からはコミュニティラジオ局にて毎週1回の50分番組を放送。2017年も継続して取り組んでいます。2017年8月には、地域情報サイト「キタキタ!」をオープン。2018年3月には情報誌「キタキタ!」を創刊しました。

これらの取り組みを通じて、学生が地域に埋もれていた面白いお店やイベント情報を知ること、地域の人の暮らしや仕事の面白さ、大変さなどを知ること、また、パソコンを使っのての情報発信スキルや、対人コミュニケーションのスキル向上を図ることを目指しています。

### 活動内容と成果

ラジオ番組「大谷大学ハッピーアワー!」を毎週火曜日19時より放送。全51回放送し、地域の商店主やNPOスタッフなど多数の方にゲストとして登場いただきました。また、新規に開設した地域情報サイト「キタキタ!」では、「地域のニュース」「イベント情報」「グルメ」「ショッピング」「お出かけスポット」「まちづくり」などをテーマにまちに出て取材を行い、情報を発信。約40件の記事を発信しました。

情報誌「キタキタ!」では、「手づくりのしごとと暮らし」と題して、個性的、ユニークな仕事に取り組む若い世代、8組へのインタビュー。北区での仕事や暮らしを紹介しました。また、古くからの地域の魅力を紹介するコーナーとして、紫明学区、紫野学区の和菓子を紹介しました。

これらの取り組みを通じ、学生たちと、地域の面白い若者、大人とのつながりが生まれた他、地域の人たちの様々な生き方、働き方に刺激を受けています。

また、学生たちは、番組や情報誌づくりなどに必要な企画力、チーム運営に必要なマネジメント能力を身に付け、ラジオ放送や取材を円滑に進める会話力(コミュニケーション能力)も身につけることができました。



↑webサイト キタキタ



### 参加者コメント



山木 栞

社会学科 4年生

情報誌作成を通し、相手から魅力を聞きだす難しさ、そして取材したことを文字で表現する面白さを学びました。

また、事業を始めるにあたっての想い、暮らしの様子を肌で感じる事が出来ました。



井上 健

社会学科 3年生

ラジオパーソナリティを務めました。ゲストの方々は自分の仕事に誇りを持ち、笑顔でお話される姿が印象的でした。まもなく放送100回を迎えますが、先輩方の成果を引き継ぎ、さらにより番組をつくりたいです。



## 京都市北区鳳徳学区 まちづくりビジョン作成

京都市北区鳳徳学区

2017年6月～2018年3月

正課外活動

大原ゆい・志藤修史

文学部社会学科 1年～3年生 11名



### プロジェクト概要

「学区まちづくりビジョン」は、北区制定60周年の2015年に策定された北区基本計画「北区民つながるプログラム」において、2020年をめどに区内全18学区で策定を目指すとして掲げられたものです。ここでは、住民と大学が連携・協働しながら、学区の将来像を住民自らが主体的に考え、みんなで議論しまとめていくプロセスが重視されています。本学では、教員の専門的知識や技能と学生の積極的な参加意欲を活かしてビジョンづくりに関わっています。

本プロジェクトに参加した社会学科の学生は、ワークショップのファシリテーション（進行）、記録、発表、ワークショップの様子をまとめたニュースレターの原稿作成などに取り組んできました。参加住民の皆さんの学区への思いを引き出しつつ、現状の課題、これからの学区の未来についてじっくりと語りあいました。

グループでの話し合いや意見をまとめて発表する場面では、うまくいかないこともありましたが、そんなときには、学生同士や同じグループの住民からフォローが入ったり、参加者が立場をこえて協働して取り組む様子があちこちで生まれていました。とくに、昨年度紫竹学区でのビジョン作成プロジェクトに関わった経験を持つ学生は、その経験を初めて参加する学生に伝えたり、グループのリーダー的役割を担うなど学生同士の学び合いの場にもなっていました。

### 活動内容と成果

2017年度は、鳳徳学区のビジョンづくりに参加しました。学区メンバー、区役所スタッフ、学生、教員とでコアスタッフ会議を重ねながら、ワークショップを開催しました。全3回のワークショップには、こどもからおとなまで毎回50名を超える地域の方にお集まりいただき、和気あいあいとした中で、これからの地域のことについて話し合う時間となりました。そして「若い力を育てるのは今だ！こどもとおとなの新しい「当たり前」を作る鳳徳学区」と題したまちづくりビジョンを地域のみなさんと一緒に作成しました。

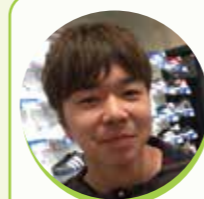
また、ワークショップでの地域のみなさんとの出会いをきっかけに、PTAやおやじの会が主催する地域行事にも参加させていただき、地域のみなさんとの交流を深めています。学区ビジョン作成というプロジェクトはここでひとつの区切りとなりますが、地域のみなさんとのご縁を大切にしながら、まちづくりビジョンに描かれた鳳徳学区の将来像を実現していくための活動にこれからも参加していきたいと考えています。

完成版の「鳳徳学区まちづくりビジョン」は、京都市北区役所の窓口で配布されているほか、Webサイトからもダウンロードすることができます。

(問い合わせ：北区地域力推進室企画担当075-432-1199)



### 参加者コメント



田中 隼人

社会学科 3年生

ワークショップでは鳳徳学区の魅力を多く教えていただきました。鳳徳学区には会館や小学校を中心に集まれる場所があり、子育てなど住みよい環境ができていると感じました。

今後はその環境を維持しながら私達もイベントなどを通して地域と関わってきたいと思います。



緒方 秋穂

社会学科 4年生

私はこれまで紫竹学区と鳳徳学区の学区ビジョンに参加しました。客観的に地域を見るのではなく、地域の中に入り主観的に見ながら地域の将来性を考えていく事は、あまりない経験だと思いました。今では、この学区ビジョンでのかわりがきっかけで、PTAの方と繋がり小学校や学区の行事に参加しながら、学区の方との交流をしています。

大学を卒業するまでに、これまでよりもっと積極的に行事に参加したいと思っています。

## 聞き取りを通じた多世代交流による 地域活性化プロジェクト(左京)

📍 京都市左京区

📅 2017年4月～2018年3月

📖 社会学科現代社会学コース専門科目

👤 高井康弘・渡邊拓也・徳田 剛・野村明宏・翁 和美

👥 3年生 9人



### プロジェクト概要

京都市左京西部・東部いきいき市民活動センターの「聞き取りを通じた多世代交流による地域活性化」事業に学生が参加しました。同事業は7年前から同センターが続けてきたものです。高齢者の方が聞き手に自らの経験や思い出を話し、聞き手はそれを傾聴することで、高齢者が元気になるという効果が見込まれます。

また、聞き取り内容を小冊子やパネルにまとめ、表現発信することで、地域の高齢者の貴重な経験が、地域資産として共有され、次なる関係づくりの起点になりえます。これらが同事業を主催するセンター側の狙いでした。こうした事業に学生が参加することで、学生は貴重な知識を得、聞き取り手法についても体得することができます。またこうした活動に自身が参加し観察することで、市民活動の実際について考えることができます。それらが授業としての狙いでした。同事業への参加後、授業では高齢者への二次聞き取りをさらにおこない、聞き取り当日の作業だけではなく、その前後の聞き取り相手との関係構築、質問項目作成、聞き取りテープ起こし、データの検討分析、聞き取りおよび考察内容の文章化、報告書編集など一連の社会調査の過程を学生自身がこなすことで、各段階のさまざまなスキルや倫理を身に付けてもらうことができました。

### 活動内容と成果



2017年4月以降、同センター・スタッフとの話し合い、聞き取りのトレーニングや盆踊り設営への参加を通じた関係構築などの準備を経て、11月に5人の高齢者に家にまつわる思い出について聞き取りをし、文章にまとめ、プロの写真家が撮影した写真とコラボした小冊子『わたしの居場所』を12月に刊行し、パネル展示「わたしたちの家物語り」も12月から2月にかけて左京東部・左京西部両いきいき市民活動センター及び大谷大学において開催しました。

また、12月には高齢者宅を再訪し、戦争や仕事や生活や家族についてより詳しい聞き取りをし、その内容を分析・考察した成果を『2017年度社会調査実習報告書：昭和初期世代の戦争・暮らし・家』として2018年3月に刊行しました。

### 参加者コメント



**山本 若奈**

社会学科 4年生

最初は話が続かなかったり、途中で沈黙の時間ができてしまったりと緊張しましたが、2回目には聞き取りというより自分の祖父母と話しているように楽しく会話することができました。

生活の知恵や、戦争中の時代背景など、こんな機会がなければ聞くことができなかったさまざまなことを聞くことができました。



**梶川 貴弘**

京都市左京西部いきいき市民活動センター 副センター長

初めての連携で不安でしたが、学生の皆さんが高齢者と接することや文章作成に真剣に取り組んでくれてありがたかったです。

学生さんは少し背伸びをして頑張っていたのかもしれませんが。その頑張りがこれからの糧になれば嬉しいです。

## 若者のまちづくり参加促進プロジェクト

📍 京都市北区

📅 2017年4月～2018年3月

📖 文学部社会学科地域政策学コース専門科目

👤 赤澤清孝

👥 文学部社会学科 2年生・3年生 30人

### プロジェクト概要

地域の高齢化が進む中で、地域活動へ若者の参加を促し、地域の若返りを図ること目的としています。具体的には、町内会等が取組む防犯や防災活動への参加、空き家を活用した学生の生活拠点（シェアハウス等）づくり等に取り組むことを目指します。

今年度は、京都府が取り組む次世代下宿「京都ソリデール」事業と連携を試みました。この事業は、高齢者と若者の同居・交流による若者の定住促進等の取組みとして京都府内で実施している事業です。同じような取組みは欧州で始まり、フランスでは、パリのボランティア団体「パリソリデール Le Paris Solidaire」などが、お年寄りが若者に自宅の一室を低家賃で提供する代わりに、若者はお年寄りの心の支えになるような同居について、マッチングを実施しています。



### 活動内容と成果



7月に京都府と共催で「第2回高齢者と若者の縁のある住まい方フォーラム」を開催。赤澤先生が「地域の暮らしを支える『学生住民』の力」と題し、学生の居住支援による多世代共生のまちづくりについて講演を行いました。

参加者61名で、空き部屋を提供したい高齢者層の参加も多数ありました。

これをきっかけに京都府との連携が進み、実際に1名の学生が北区にお住まいの高齢者宅の空き部屋に2018年3月より同居を始めています。次年度は、この例をさらに広げべく京都府や地域の団体と協力していく予定です。

### 参加者コメント



久保 駿也

社会学科 4年生

京都府の方のお話を聞き、「京都ソリデール事業」に興味を持ちました。兵庫県から通学していたのですが、北区で下宿することで、地域の暮らしをより深く知り、地域活動にも積極的に参加していきたいと考えています。

## 学まち連携大学促進事業に関する取り組み

### 学まち連携大学促進事業とは

「学まち連携大学促進事業」とは、京都市と(公財)大学コンソーシアム京都との協働により、地域の住民組織や市民活動団体、地域企業、商店街などと連携した活動を通じて学生が学ぶ実践的な教育プログラムの開発及び実施に取り組む大学及び短期大学を支援する制度です。

2016年の夏に(公財)大学コンソーシアム京都及び京都市による大学における地域連携事業とカリキュラムとの連動及び全学化を補助事業「学まち連携大学促進事業」の公募があり、「北区・北大路を中心とした大学・地域連携事業」として申請し、採択されました。

「北区・北大路地域を中心とした大学・地域連携事業」では、大学の位置する烏丸北大路地域において、地域住民やNPO、地元企業、商店等の事業組織と大学が連携し、宗教や歴史、国際文化、教育、保育、情報メディアなど、様々な専門性を有する学生、教員が正課および正課外の活動を通じて、子育て支援や、地域情報の発信、観光振興などをテーマに、地域の魅力をさらに高めるような取り組み、あるいは地域の課題を解決、改善するような取り組みを目指しています。具体的には、「祇園祭ごみゼロ大作戦」「子ども・子育て支援事業」「聞き取りを通じた多世代交流事業(左京)」「北大路情報発信」などが、学まち連携大学促進事業として取り組む活動です。

学生・教職員にとって、学び暮らす街である烏丸北大路エリアにこれらの活動を通じて、①研究成果の社会還元、②実践活動を通じた学生の学びの充実、③地域貢献が両立・実現できるよう、取り組んでいます。

### 学まちサミット

「学まちサミット」とは、京都市と(公財)大学コンソーシアム京都の共催で行われる交流発表会です。主に、市内における大学・学生と地域の連携事例や地域連携活動に関わる大学・学生や地域団体等が交流する機会として2016年秋より年に一度開催されています。

このサミットでは、「学まち連携大学促進事業」にて採択された大学が、日頃の地域連携事業に関する活動内容や成果について報告します。



2017年11月に開催された第2回では、社会学科赤澤先生が大谷大学の取り組みについて発表した後、具体的な事例として、「北大路情報発信プロジェクト」で活動する、文学部社会学科地域政策学コースの2年生が中心となって、地域の情報収集、取材、発信についての報告を行いました。

パブリシティ  
実績

2017年度も、たくさんのメディアで活動をご紹介いただきました

【Webサイト】

- ◆ほとんど0円大学(2017年7月11日)  
大谷大学の学生パワーが熱い  
「祇園祭みゼロ大作戦」ボランティア
- ◆(公財)大学コンソーシアム京都 教まちやNews  
「加盟校レポート」25 大谷大学「地域連携室」

【新聞】

- ◆日刊建設タイムズ(2017年7月14日)  
京都ソリ Deal 事業普及促進へ 高齢者若者交流する住まい方を考える 大谷大学でフォーラム開催
- ◆京都新聞(2018年1月11日)  
お年寄りにとって「家」とは  
北区 日常の写真、大谷大生の取材文展示
- ◆毎日新聞(2018年1月27日)  
学ぶ 活動紹介 高齢者から聞き取り 昭和の思い出継承

【テレビ】

- ◆KBS京都(2018年1月13日)  
京都新聞ニュース  
お年寄りの生活描く「家」にまつわる写真展

【雑誌・会報誌】

- ◆月刊 同朋(2017年9月)  
北山杉の里で集いの場をひらく  
大谷大学コミュ・ラボ「中川学区の暮らし再発見プロジェクト」
- ◆なんたん社協だより(2018年1月)  
「平屋地区福祉協×大谷大学」  
協働で進めるふれあい・支えあい



情報発信

大谷大学地域連携室 コミュ・ラボに関する情報



大谷大学 地域連携室 オフィシャルFacebook



大谷大学 オフィシャルWebサイト

大学公式サイトでも  
情報発信しています

ラジオ番組 大谷大学ハッピーアワー！



毎週木曜日19時からFM 87.0MHzで放送中！聴取エリアは、京都市北区と上京区の各一部となります。

パソコンやスマホでも番組をお聞きいただけます。  
詳しくは、「RADIOmix KYOTO」のWebサイト「放送の聴き方」をご参照ください。



大谷大学 ハッピーアワー！  
オフィシャルFacebook



大谷大学 ハッピーアワー！  
オフィシャルTwitter

オンエアレポート、スタジオポートレートなどをFacebookやTwitterで発信中！

キタ区キタ大路発のリトルプレス キタキタ！



2017年に開始したWebサイトに加え、フリーペーパーの発行も開始しました。  
発行は、10月と3月を予定しています。ぜひ、お手にとってご覧ください。

【配布場所】

大谷大学 響流館1階、大垣書店(本店、北大路ビブレ店)、北区役所、京都市北青少年活動センター、サーカスコーヒー、今宵堂、Kappo-DELI、dolce panda、karigane、さざなみペーカリー、まちの自転車店【リコ】烏丸北大路店 ほか。

\*配布にご協力いただける場合は、地域連携室までご連絡ください

URL <http://kitakita.otani.ac.jp/>


大谷大学地域連携室 事業報告書2017(2018年5月発行)

編集・発行 大谷大学地域連携室

お問合せ 大谷大学 地域連携室


〒603-8143京都市北区小山上総町 大谷大学 こうりかん 響流館 1階

Tel 075-411-8015 Fax 075-411-8162 Mail [commu-labo@otani.ac.jp](mailto:commu-labo@otani.ac.jp)



受賞歴

### 「きょうと地域力アップ貢献事業者」に 選ばれました！



2018年3月4日 授賞式にて

京都市では、平成24年4月に施行された「地域コミュニティ活性化推進条例」に基づき、地域住民や事業者が支え合い、安心して快適に暮らし続けられる地域コミュニティの実現に向けた取り組みが進められています。

「きょうと地域力アップ貢献事業者表彰」は、この取り組みの一環として、自治会・町内会等を中心とする多様な主体の連携による地域コミュニティ活性化を一層推進することを目的に、地域力の向上に貢献している事業者、NPO法人、大学等を表彰するものです。

この度、中川自治振興協議会にご推薦いただき、受賞することとなりました。